

U.S. Indicators

米国 緩やかな拡大基調の持続で市場の不安を小幅緩和(16年1月小売売上高)

発表日：2016年2月12日(金)

～基調はやや鈍化も懸念されたほど弱くない～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)		
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
15/06	▲0.0	(+1.8)	+0.4	▲1.1	▲1.6	▲1.0	+0.9	+0.5	▲0.9	+1.2
15/07	+0.8	(+2.6)	+0.6	+1.7	+1.5	+0.9	▲1.3	+0.3	+0.3	▲1.0
15/08	+0.0	(+2.0)	▲0.1	▲0.0	+0.3	▲0.1	+0.5	▲0.1	▲0.1	▲2.2
15/09	▲0.1	(+2.2)	▲0.5	+1.0	+1.4	+1.2	+0.8	▲0.7	▲0.6	▲4.8
15/10	+0.0	(+1.6)	+0.1	▲0.0	▲0.3	+0.9	▲1.3	▲0.1	▲0.9	▲1.1
15/11	+0.3	(+1.5)	+0.3	+0.4	+0.6	▲0.8	▲0.7	+0.2	+1.0	▲2.0
15/12	+0.2	(+2.4)	+0.1	+0.6	+0.5	+0.7	▲0.9	▲0.3	▲0.1	▲0.5
16/01	+0.2	(+3.4)	+0.1	+0.5	+0.6	▲0.5	+0.1	+0.1	+0.2	▲3.1

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

1月コア小売売上高は 同+0.4%に加速

16年1月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.2% (前月同+0.2%) と市場予想中央値の同+0.1%を上回ったうえ、11、12月合計で0.2%上方修正されており、実態は市場予想より強い。ガソリン価格の下落が、ガソリンスタンドの売り上げを落ち込ませているものの、その他の部門の売上を下支えしている。内訳をみると、家具、スポーツ用品・本・趣味用品、飲食店が減少に転じたほか、ガソリンスタンドが減少幅を拡大し、建設資材が増加ペースを鈍化した。一方で、自動車・同部品が加速したうえ、家電、食品・飲料、衣料品、百貨店など一般小売、その他小売、通信販売が増加に転じた。また、薬局は変わらずとなった。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高も、前月比+0.1% (前月同+0.1%) と市場予想の同0.0%を上回ったうえ、11、12月合計で0.2%上方修正され、市場予想よりしっかりした内容だった。家具、スポーツ用品・本・趣味用品、飲食店が減少に転じたほか、ガソリンスタンドが減少幅を拡大し、建設資材が増加ペースを鈍化した一方で、家電、食品・飲料、衣料品、百貨店など一般小売、その他小売、通信販売が増加に転じた。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高 (自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高) は、前月比+0.4% (前月同0.0%) と加速した。家電、食品・飲料、衣料品、百貨店など一般小売、その他小売、通信販売が増加に転じた。1月のコア小売は、10-12月期比年率+2.3%と10-12月期の前期比年率+2.6%から小幅鈍化しているが、市場の懸念する急激な減速にはなっていない。

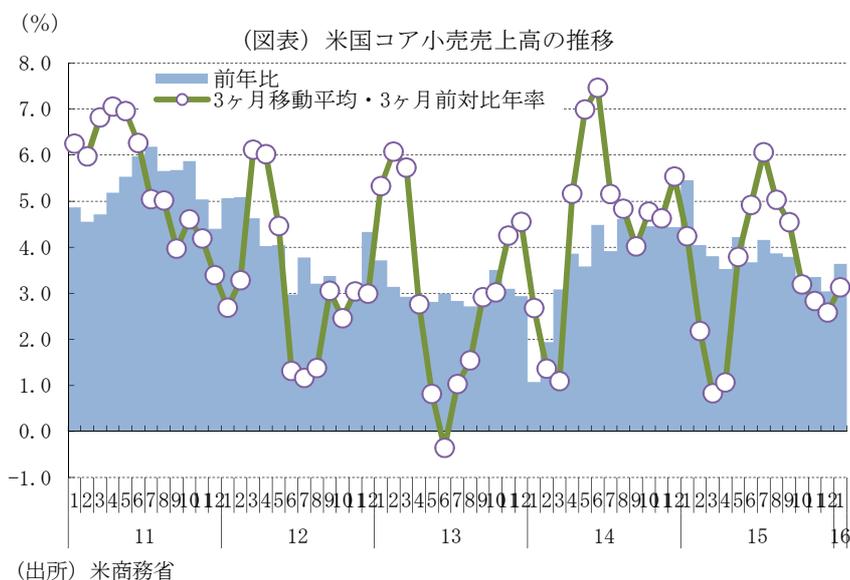
1月のコア小売は、小売売上高の拡大基調に変化のないことを確認させる内容となった。これを受け、金融市場で高まっていた消費に対する懸念は小幅緩和されたようだ。雇用・所得の拡大、緩和的な金融環境、マインドの安定、ガソリン価格の下落等を背景にコア小売売上は緩やかな拡大基調を保っている。このような消費を取り巻く環境が急激に悪化する可能性は低いことから、小売売上高は当面現在の拡大基調を維持しよう。

1月の小売・飲食サービス売上高では通信販売が最大の押し上げ

1月小売売上高の前月比(+0.18%)の寄与度をみると、マイナス寄与の業態では、ガソリンスタンドが▲0.23%と最大の押し下げ寄与となり、次いで飲食店が▲0.06%、スポーツ用品・本・趣味用品が▲0.04%、家具が▲0.01%となった。一方、プラス寄与の業態では、通信販売が+0.15%と最大の押し上げ寄与となった。他では寄与度の大きい順に、自動車・同部品が+0.14%、百貨店を含む一般小売が+0.10%、食品・飲料が+0.07%、建設資材が+0.04%、その他小売りが+0.03%、衣料品が+0.01%と続いた。なお、家電、薬局はともに0.00%。

コア小売売上高は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+3.1%と加速

小売売上高のモメンタム(3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率)をみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、価格下落に伴うガソリン売上の減少も、飲食店、通信販売、建設資材の拡大等により+0.9%(前月▲0.2%)とプラスに転じた。また、小売売上高の基調を示すコア小売売上高(自動車・ガソリン・建設資材を除く小売・飲食サービス売上高)は、+3.1%(前月+2.6%)と加速し、コア小売売上高のモメンタムが再び強まり始めている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。